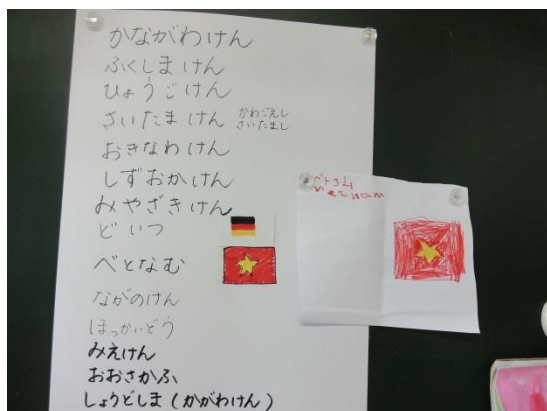


幼稚園 園まつり製作 年長編

夏休み明けの9月。夏の思い出をみんなの前で発表していた時のこと。おじいちゃんおばあちゃんの家への帰省や旅行で、日本各地いろいろな場所へ行ってきたあやめ組の子供たちは、友達の発表を聞く中で「京都？行ったことある〜」「私も沖縄行ったよ！同じだね」など府や県など呼び名がいくつかあることや、新しい県名を知るきっかけになりました。



<みんなが夏休みに行ったところ>

日本についての関心が高まった子供たちに、私が読み聞かせに選んだ絵本が“おしろとおくろ”でした。この絵本はお城が“お白”とダジャレで登場したり、白とくれば黒！と“お白”に対比させた“お黒”が出てきたりするのです。読み聞かせをしている時のみんなの表情はニヤニヤ〜としていて、絵本の世界に惹き込まれているのを感じました。また裏表紙には日本地図と各地のお城が描かれていて、そこにも惹きつけられていました。

そんな中たくさんのおもちゃ素材が集まったので、皆で作りたいものを話し合ってみると、「おばけやしき！」「お花畑は！？」「電車」「お城がいい」・・・などいろいろな意見が出てきました。その話し合いの際、“勢いもあり積極的にリーダーシップをとってクラスやグループをまとめようとする子”がいる一方で、“その意見に納得がいかない子”がいたり“そんな友達の表情に気づいて新たな意見を出す子”がいたりするのです。自分とは違う意見があることや、自分の思い通りにいかないを経験することで、自分の意見を伝えようとする姿が増えたり、友達の意見に同調する姿があったりと成長を感じました。1学期から話し合いを積み重ねてきたことで、発言したり自分の意見が受け入れられたりする喜びを経験したからなのだと思います。毎日少しずつ話し合いの時間をもつと、6つの意見が3つになり、2つになり・・・段々と絞られていき最後は、「おばけやしき」と「絵本に出てきたお城」の決選に。そんな簡単にはまとまらなないと予想していたのですが、一人の女の子の「じゃあ、一緒に合わせちゃうのはどう？」という大きな声に「ああ！いいね」「それならみんなが嫌な気持ちにならないね」と、2つのアイデアを組み合わせることに決定したのです。こうしてあやめ組は面白かった絵本のお城を製作することになりました。

製作するものが決まると、次はみんなのイメージをどう合わせるかや、何をどうくっつけて組み立てていくかを話し合いました。「とりあえずやってみたら？」という私の言葉に

みんなは一学期に製作した海賊船を思い出しながら、ダンボールを同じ数ずつ積み上げて丁寧にガムテープでつなぎ合わせていました。微妙に違う大きさのダンボールをつなげてしまった時には、無理やりつなげようとしてみたり、うまくいかないことに気づいてみんなで考えたり、友達に「何でだと思う？」と相談したり……。結局形をそろえた方がいいということになり一度つなげたものをはがして、同じ形のものを探してきてもう一度つなげてお城の壁を完成させていました。

また園まつりに展示することを話すと、「たくさんのお客さんが来ても壊れないもの＝丈夫に作る！」「誰でも楽しめるもの＝オセロ（白と黒！）で遊べる！びっくり箱で驚かせる！」と、どんどんイメージを膨らませてはそれを伝え合って考えを共有して作っています。

いろいろなところで一人一人それぞれの素敵なアイデアが生まれてきて、それをみんなで共有して、失敗したり相談したりしながら製作はまだまだ続いていくと思います。みんなの一つの作品を作るプロセスの中には難しさもありますが、だからこそ達成感もひとしおで、私も一緒になってその楽しさを味わっていこうと思います。

(あやめ組担任)



<皆の力と心を合わせて・・・>



<ようやく完成したオセロで対決！>

<



<牛乳パックと輪ゴムでバネ作り！>